

## ■教会の信仰生活に投げ込まれた「社会福祉」のころ

いろいろな職業の働き盛りの人たちが祈りをささげていた神戸市垂水区の舞子丘陵に建つ日本基督教団西神戸教会。ここに1966～1971(昭和41～46)年にかけてアメリカからノーマン・パースンズ宣教師が派遣され、「社会に奉仕するクリスチャンとキリスト教活動」を説き、「弱い人々に手を差し伸べる隣人愛」を語りかけていました。

パースンズ宣教師の話を聞いた教会員は、その道を「社会福祉活動」に定めます。キリスト教福祉の先輩に学ぼうといくつかの施設を巡る中で、聖書に向かい合い、そして聖書の隣人愛を実践する浜松の長谷川保聖隷福祉事業団理事長と出会います。



西神戸教会



島田信一牧師(左)とノーマン・パースンズ宣教師(右)



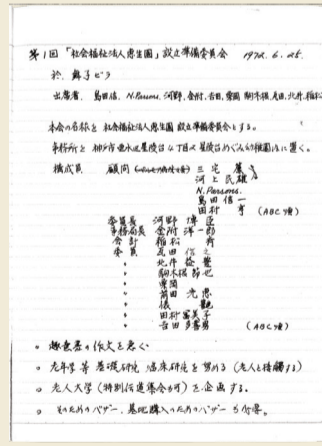
長谷川 保氏

## ■いったん挫折するも建設準備を継続

長谷川保との出会いによって高齢者福祉を決心した信徒たちは、平日は各々の勤めをしながら、週末には聖日礼拝と特別養護老人ホーム建設のための勉強に邁進します。

1971(昭和46)年6月、「恵生園建設準備委員会」が発足。実践の地を神戸市と決め、1972(昭和47)年4月に神戸市長と面談するものの、「自己所有地がないこと」、「法人格がないこと」という、社会福祉法人に必要な二つの条件を満たせない現実と直面します。

しかし、創始メンバーは諦めませんでした。信徒たちは翌5月から、国鉄(現・JR)垂水駅や明石駅で日曜日ごとに街頭募金活動を開始。4年間で2900万円もの一般募金を集め、その後の事業の礎となります。



恵生園 建設準備委員会記録ノート



恵生園 建設募金活動



## ■和田山町福祉村構想と巡り合って

神戸市長からお聞きした条件の一つである法人格は、長谷川保の導きで聖隷福祉事業団の傘下に入るという形で確保。しかし、二つ目の条件である自己所有地はなかなか好都合なものに行き当たりませんでした。

半年ほどして突然、兵庫県和田山町から、並川實治町長が推進する「和田山町福祉村構想」への参画の案内が届きます。竹田城跡で有名な竹田の町の、円山川をはさんだ「但馬吉野」と呼ばれる立雲峡のふもとの丘陵でした。

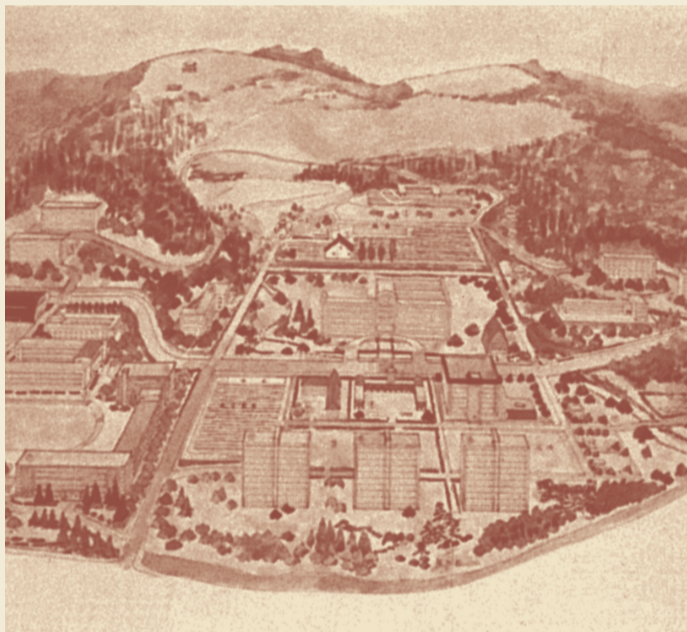
再び夢が広がりました。「建設準備委員会」メンバーは壮大なマスタープランを描き上げます。特別養護老人ホームのみならず、障害者施設、病院、福祉大学、高齢者マンションなどを10年計画で設置する、まさに「夢」プランでした。

## ■障害者福祉施設に事業転換して進展

特別養護老人ホームを具体化しようとしたその時、兵庫県から但馬地方には既に建設中の特養があるため、2つ目の特養を支援できない、と突然の連絡。身体障害者施設の整備に切り替えてほしいというのです。

マスタープランには障害者施設も計画に入っていたので、建設準備委員会はこの方向転換を受け止めることができました。この事業転換が、後の神戸聖隷福祉事業団の在り方を決定する大きなターニングポイントになります。

和田山町の強い後押しと聖隷福祉事業団の協力で、地元住民への説明や用地買収などがスムーズに進み、1974(昭和49)年9月に計画変更協議を県に申請。1976(昭和51)年の開園に向けて、西神戸教会から4家族と3名の単身者が大きな決心をして竹田へ移住して行きました。



稲松 斉氏が描いたマスタープラン



昭和47年8月23日の読売新聞但馬波版「立雲峡に老人の楽園 キリスト教団建設」



恵生園開園時メンバー



## ■素人集団による利用者中心の福祉の業



建設中の恵生園



建設中の恵生園



恵生園 幸橋竣工式

ついに1976(昭和51)年6月1日、恵生園建設準備委員会が発足して約5年を経て、キリスト教徒による障害者福祉の実践の場「恵生園」が開園します。

喜びのスタートでしたが、神戸から移住した職員は全員が福祉については全くの素人。「利用者に必要なことは利用者に聞こう」を徹底し、信仰に基づく愛と奉仕を社会福祉の現場で表そうと努力しました。「リーダーはメンバー全員」との体制で、毎夜毎夜の議論を積み重ねて、フロンティア精神で障害福祉の道を切り拓いていきました。また、地域社会との関係づくりも積極的に進めました。「とにかく住民にあいさつを」ということで、夕方に頭を下げたら郵便ポストだったという笑い話はこの頃の話です。

## ■「キリストさん」と地域から温かく受け入れられて

歴史ある城下町は閉鎖的という定説通り、竹田もそうだと思っていました。しかし、恵生園メンバーは早々に地域社会に受け入れられ、むしろ人気者でさえありました。

城下町竹田の人々は、恵生園を「キリストさん」と呼んで、福祉の実践に敬意を表すようになりました。初めに老人会、続いて婦人会と、次々とボランティア活動が始まり、シーツ交換、窓ふき、草刈り、野菜の寄贈など多種多様の協力システムが、地域に拡散していきました。

兵庫県が発祥とされる中学生の「トライやるウィーク」。その原型は恵生園で始まった和田山中学校の福祉体験学習だと言われています。



シーツ交換のボランティア



花壇の手入れをするボランティアの方々



中学生の「トライやるウィーク」体験



中学生の福祉体験学習